

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

間質性肺炎の診断における経気管支的氷結肺生検 (transbronchial lung cryobiopsy) の有用性に関する検討

2. 研究の対象患者

2012年1月1日より2018年12月31日の間に間質性肺炎と診断され、経気管支氷結肺生検と外科的肺生検の両検査が行われた患者さん

3. 研究の対象期間

2012年1月1日～2018年12月31日

4. 研究の概要

現在、間質性肺炎の診断には臨床・放射線・病理の医師が合議して行われているが、病理検体は経気管支肺生検による小さな検体では不十分であり、外科的肺生検による大きな検体が必要とされています。ただ、外科的肺生検は患者さんの身体的負担が大きいことが問題視されてきました。近年、これまでの経気管支生検よりも大きな検体を得られる経気管支氷結肺生検が開発され、この検体を使用した臨床・放射線・病理の合議により間質性肺炎の診断が可能であるとの報告がなされるようになってきました。

今回の研究の目的は、経気管支氷結肺生検および外科的肺生検の両検査が行われた患者さんの標本を集積し、経気管支氷結肺生検の標本が外科的肺生検で得られた標本に匹敵するほどの所見・診断が得られるか否かを検討することです。具体的には、多数の病理医で各標本の病理診断を行い、同一症例の経気管支氷結肺生検標本・外科的肺生検標本間の診断一致率、経気管支氷結肺生検標本に対する病理医間の診断一致率、外科的肺生検標本に対する病理医間の診断一致率を調べます。

5. 研究実施予定期間

2019年5月22日～2021年3月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

病理標本：経気管支氷結肺生検と外科的肺生検標本

カルテ情報：臨床診断名、年齢、性別

7. 外部への試料・情報の提供

各病理検体はvirtual slide化されたのち、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病理学/病理診断科に送付されクラウド化されます。カルテ情報も同施設に送られます。

研究に利用する検体や情報には個人情報が含まれますが、院外に提出する場合には、お名前、住所など個人を直ちに判別できる情報は削除し、研究用の番号を付けます。

8. 研究組織

地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院 臨床病理科 蛇澤 晶
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病理学/病理診断科 福岡順也
日本医科大学解析病理学教室 寺崎泰弘
近畿大学医学部病理学講座 田中伴典
横浜市立大学医学部病態病理学教室 奥寺康司
横浜市立大学医学部病態病理学教室 松村舞依
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病理学/病理診断科 田端和宏
九州大学大学院医学研究院形態機能病理学 橋迫美貴子
関西医科大学臨床病理学講座 石田佳央理
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病理学/病理診断科 財前圭晃
独立行政法人国立病院機構東京病院病理診断科 木谷匡志
神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科 馬場智尚
神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科 小倉高志
はるひ呼吸器病院長 齋藤雄二
はるひ呼吸器病院内科 小橋保夫
日本赤十字社医療センター病理診断科 武村民子

9. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。ただし、他の患者さんの個人情報や研究の知的財産など、情報の種類によっては開示できないものがあります。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

- ・ 研究責任者：臨床病理科 蛇澤 晶
 - ・ 臨床研究支援センター
- 電話：0479-63-8111(代)

(研究代表者)

地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院 臨床病理科 部長 蛇澤晶